

親子ちゃれんじ④

AWAJIトレジャーハンティング キャプテン・ピッツアが隠した幻の玉ねぎを探せ

1 趣 旨：地域の子育て支援として、幼児に関わる保護者の緩やかなコミュニティを創る。

親子で夢中になる機会を通して、お互いに楽しむ時間の大切さを感じる。

2 日 時：平成31年3月2日（土）13:00～3月3日（日）13:00

3 場 所：国立淡路青少年交流の家

4 対 象：子どもとその保護者

5 参加者：28家族93名（保護者45名、子ども48名）

6 講 師：絵本講座指導（保護者向け） 立石 有礎氏
絵本講座指導（子ども向け） 天羽 恵氏

平成30年度 国立淡路青少年交流の家 教育事業

親子ちゃれんじ

参加者大募集！！

2月 3月

淡路原人になろう
～火遊びと狩りしよう～

AWAJIトレジャーハンティング
キャプテン・ピッツアが隠した幻の玉ねぎを探せ

| | |
|--|--|
| 日時：2月16日（土）13:00 ～17日（日）12:00まで | 日時：3月2日（土）13:00 ～3日（日）13:00まで |
| 定 員 親子25組100名程度 ※先着順 | 定 員 親子25組100名程度 ※先着順 |
| 参 費 大 人 1,870円/小学生 1,840円 4歳以下 1,530円/3歳以下 200円 | 参 費 大 人 2,170円/小学生 2,140円 4歳以下 1,630円/3歳以下 200円 |

スケジュール

【1日目（2/16）】
12:30 受付開始
13:00 火遊びおやつ
19:00 キャンドールのつくり

【2日目（2/17）】
9:30 狩りしよう（園内アワブチ公園）
※夜更参り危険です。

【1日目（3/2）】
12:30 受付開始
13:00 キャプテン・ピッツアが隠した幻の玉ねぎを探せ

【2日目（3/3）】
9:30 みんなでジャックポットゲームに挑戦！！
13:00 解散

2月・3月開催会場：国立淡路青少年交流の家
※1月15日より受付開始、各回先着順となります。

どのお夏も笑顔の思い出を 国立淡路青少年交流の家
連絡先：〒415-0022 静岡県浜松市浜名区淡路町33-39
TEL:0799-55-2666

7 プログラムの内容

3月2日（土）13:30 キャプテン・ピッツアが隠した幻の玉ねぎを探せ

参加者の前にキャプテン・ピッツアと手下のトマトが現れて「交流の家内にちりばめられた謎を解けるもんなら解いてみる」の挑戦から始まった、キャプテン・ピッツアが隠した幻の玉ねぎを探し！！一つ謎を解くと、また謎が出てきてと、次々出てくる謎に挑戦しながら施設内を縦横無尽に駆け巡っていった。

謎には一家族だけでは解けない謎もあり、複数の家族と協力して答えを見つけることを繰り返し、最終的に「キャンプファイアー場」という答えが出てきた。

参加者全員でキャンプファイアー場へ向かうと何やら怪しいファイアー台が吹上浜にあり、子どもたちが協力してファイアー台の蓋を開けるとそこには、一つの大きな宝箱が入っていた。宝箱を開けてみると真っ白に輝くきれいな玉ねぎと、玉ねぎが使われたお菓子などが入っており、子どもも大人も大興奮だった。



3月2日(土) 19:00 絵本の世界を冒険しよう

夕食を食べた後、講師の立石 有礎氏、天羽 恵氏により、子どもたちは絵本の読み聞かせ、保護者は絵本講座と別々のプログラムを行った。

子どもたちの読み聞かせでは「魚」にまつわる絵本を3冊読んでもらった。どの話も子どもたちは夢中になって聞き、読み聞かせ中に天羽氏が入れる質問などに、元気に答える声が部屋中に響いた。読み聞かせが終わると、魚釣りゲームをみんなで楽しんだ。

保護者の絵本講座では立石氏による、絵本はどのようなことに気をつけられて作られているか、また年齢や目的に応じた選書の仕方などを教えてもらい、絵本の世界が子どもはもちろんのこと、保護者にとっても、身近で楽しくなるようなエッセンスがたくさん詰まった講座となった。講座終了後、立石氏に質問する熱心な保護者の人の列ができるぐらい盛況だった。



3月3日(日) 9:30 ジャンボピザをつくろう

昨日見つけた「幻の玉ねぎ」を使って、ジャンボピザをみんなで作った。生地を作ろうとしたときに、キャプテン・ピッツアとトマトが再登場し「美味しいジャンボピザをつくらないと承知しないぞ!」とみんなに声をかけて去っていった。

家族ごとに生地を作った後、大きな鉄板の上で5家族から6家族分の生地を合わせて、丸くなるように広げてピザ生地にした。その上にソースや、幻の玉ねぎ、ウィンナー、今が旬のシラスなどをトッピングした後、かまどに火をつけてピザを焼いた。昨日行われた謎解きのおかげか、大きな生地を捏ねる時や、カマドに火をつけて大きな火にする時、大きな鉄板を持ち上げたり運んだりする時などは、保護者の方々も子ども同士も互いに声をかけながら、楽しそうに行っている姿が見られた。また、鉄板いっぱいに広がった大きく焼きあがったピザは、参加者みんなとキャプテン・ピッツアとで美味しく食べた。



8 参加者の声

- 親子で一緒に取り組めて楽しかったです。
- 他の家族と触れ合う機会が多く、子ども同士も初めて出会ったのに仲良くなりました。
- 子どもがメインに考え、動きを見つけることができた宝探しゲームや、見たことがない大きさのピザづくりなど、どれも子どもたちに任せて体験できたことがよかったです。
- 夜にゆったりと絵本講座で、父母と子が分離して受けられることに（もちろんよい意味で）驚きました。有意義でした。
- とても考え抜かれた謎解きゲームに、目をキラキラさせて取り組める内容に感謝します。

9 所感

今回の事業では、ストーリー仕立てで進んでいく手法を取り入れて行った。キャプテン・ピッツアや手下に扮した職員が登場した時に、ぐっとストーリーに入り込んでプログラムを楽しむ子どもの姿や、その姿を喜びながら見守る保護者の眼差しがあった。謎解きとジャンボピザづくりでは、家族間の交流が多く取られるように、意図的に複数家族（3～6家族）が1グループになって取り組む内容を盛り込んだ。参加者の声からも他家族との交流がとれて良かったなどの声が多く聞かれた。実際担当者が見ている家族間同士で談笑し、日常生活での情報を交換する姿が多く見られ、当事業が目的としている「幼児期の子どもをもつ家族間の緩やかなコミュニティづくりを促進する」ことができたと考える。

また1日目夜に開催された絵本講座では、保護者と子どもと内容を分けて行った。これは絵本という日常で使われる親子のコミュニケーションツールを、保護者が知識や考えを更に深め、絵本について楽しみを更にもてるようになることで、日常の絵本の読み聞かせが今より更に楽しくなり、親子のコミュニケーションの質が上がるのではと考えたためである。参加された保護者からは「子どもへの接し方について、改めて考える機会となった」「絵本への興味が自分自身も湧いた」などの声が多く聞かれ、子どもも大人も絵本の世界を満喫し、企画した当初考えていた、保護者が絵本について更に楽しみがもてた時間となったことが伺えた。

上記のことより、今後も親子で参加する事業の時はプログラムの趣旨にもよるが、家族間が協力して行えるアクティビティを取り入れることで、日常とは違ったコミュニティが創られ、保護者や子どもにとって有意義な機会を創り出せると考える。また、保護者と子どもを分けたプログラムを行うことは、保護者が育児について考えを深め、悩みを相談できる機会として有効であり、プログラムの充実が図れる一つの手段として取り入れていければと思う。